

学校評価について

「学校評価」は、幼児教育の質の保証とその向上の手段として行うもので、そのうち「自己評価」は文科省によって義務化されています。井草幼稚園は義務化された2007年以来、毎年、2学期の終わりに職員によって「自己評価」を行ってきましたが、令和4年度より、「学校関係者評価」（当園の場合は評議員による）を加え、公表いたします。

手順は、職員一人一人がチェック表をもとに個人評価をしたものに基づいて、園長以下、一同で重点目標や計画に照らし合わせながら、その取り組みや達成状況について話し合い、園の自己評価を行います。次に、評議員会の協力を得て、自己評価の結果等について評価し、付け加えるべき検討課題を協議し、その内容を取りまとめ、報告書（下記掲載の通り）を作成するものです。

さらにこの報告書は当該年度末までに、井草幼稚園・公式WEBサイトへ掲載（年度毎に更新し、次年度更新まで常時掲載）いたします。

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年2月1日

（学）松峯学園 井草幼稚園

1. 本園の教育目標

* 幼児ひとりひとりの性格を的確に把握し、＜明るく 正しく 仲よく＞を信条に、家庭的な雰囲気の中で心と身体の調和のある発達を期する。

* 幼児の身体、心情、意欲、態度の発達に関わる「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の領域を、自由遊び・一斉活動・生活・四季折々の行事に織り込んで、たのしい保育を行なう。

* 幼稚園での集団生活を通して、はじめある基本的な生活習慣・態度と道徳、社会生活の規則を習得する。

* 童話の語りや読み聞かせ、童謡など、世代や国境を超えて大切にしたい児童の文化を継承してゆくことも幼稚園の重大な使命と考え、教育に当たる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

* 共同絵画（模写）制作を通して、各自の持ち分を仕上げていくと共に、他人と協力してひとつのものを上げる楽しさと達成感を味わう。また対象絵画をよく観察し、理解し、見えない部分を想像してみる。

* 園庭の大型遊具を工夫して、ゲーム性、競技性のある遊びへ発展し、遊びながら身体能力を高めるよう目指す。

* 在園児数の減少で逆に縦割り活動がやりやすくなった利点を生かし、お弁当、お手伝いをはじめ保育内容を工夫する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	模写する絵画の対象を教師がまず研究し、創作の背景から園児に説明できるようにする。	B	教師と園児が共によく観察し、何が描かれているか面白さがどこにあるか話し合いながら観察眼を養っていくことができた。
2	制作にかかわる幼児の様子に気を配ると同時に周囲との関係に	A	各児により集中力に差があるので、一定の時間を設けずに個々の園児にかけられる一回の時間にあえて差を

	も目を配る		設けて、少しづつ焦らずに制作を進めた。他児がどう描いているか、お互いのものを見ることも大事な点とした。
3	大型遊具の活用と遊びの発展	C	9月に最も大きいアスレチック遊具の解体があり、新アスレチック完成が2月下旬と5ヶ月を要し、まだあまり活用できたとは言い難いが、新アスレチックを中心に楽しんで身体を使う遊びにした。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	いままで続いた学年の境を越えた合同制作が今年は途切れたが、その分、各学年の発達状況に応じた作品に注力されていた。近隣のスーパーや銀行内での展示機会が増え、見てもらえる機会が増えたのは良いことだと思う。 アスレチック遊具の解体～リフォームに時間を要し、そこで遊べる日数が減ったのは残念ではあるが、新しい遊具の魅力を生かし、喜んで身体を動かす機会が増えることを期待する。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	児童文化の歴史再発見	過去から蓄積された童話集、紙芝居、歌を再度調べ、「発掘」する。また創立当時の「口演童話」の手法を再び活性化させる。
2	幼児理解	一斉活動にすぐに溶け込めない、または全く興味を示さない幼児への働きかけと同時に、一人行動の意味をよく理解する。
3	自然観察	園庭の自然に限っても、虫の生態や植物の生育には不思議な現象ことが多いことを保育者自身が学んでいく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

プレ保育の定着により、未就園児・育休中の保育園休園者の来園があり、園児にとっても小さな子供たちとふれ合う機会が少し増えた。園外の方々からの注目される機会を大事にし、幼稚園教育の魅力を伝えたい。特記事項としては、昨年秋に実った稲をねらってネズミが複数来るようになり、鳥小屋内・園舎内への侵入を許した。ネズミの食料となる稲、果実、鳥のえさの管理を工夫し、園内のネズミのフンの兆候をすばやく発見し、再発防止に努めたい。